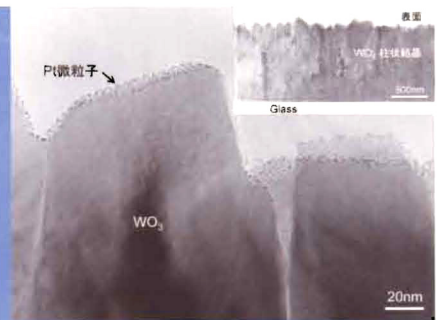


# News Letter

「次世代ナノテクのための  
ナノ計測・加工技術」



## 運命が与える橋

筑波大学数理物質科学系 重川秀実



2011年もあとわずかとなり、忙しい毎日を過ごされていることと思います。つい何ごとにも安定した姿を映してしまうのが常ですが、本来、自然も人の世も刻々と変化し、何かしら形作られたものは、いずれも微妙なバランスの下にあることを改めて感じさせられる1年でした。科学は、こうした営みを理解する礎を探る試みとも言えますが、見えない世界を手探りでとらえるものである以上、科学といえども積み上げた結果を揺るぎないものと慣れてしまうのは、研ぎ澄ますべき感性を曇らせる危険につながるかもしれません。

光より速いニュートリノの報告は、受け止める側の観点を見直す機会を与えてくれる興味深い話題でした。個人的には、事の正否はともかく、光速が一定であることや量子の描像も決して世を眺める頂では無く、宇宙には尚、深遠な秘密が横たわることを心に留め、常に『何故?』と問いかける姿勢を持ち続けることの大切さを感じています。時を同じくしノーベル物理学賞が宇宙の膨張を示す仕事に与えられたことは、足下の不思議さを見つめ直すようウインクする女神のいたずらっぽい笑みを思い浮かべさせます。

研究を成し遂げるには学問的な知識や能力を磨くこととあわせ、諦めず粘り強く困難に向かう心を培うことが大切になりますが、最近観ました映画『はやぶさ』では、夢を実現させ、事を成すには『目的を持ち、諦めず全力で追いつける』ことが如何に大きな意味を持つかが描かれています。また、『猟奇的な彼女』は何度か観たお気に入りの韓国映画ですが、その中に『偶然とは努力した人に運命が与えてくれる橋』という言葉が出てきます。運を味方につけ目的を達成するには女神に愛される生き方をすることが必要かもしれません。科学に限らず、努力を続ける人の目には世の景色が異なって映ることもありそうです。人生一度で短く、是非、女神の三つ編みの先でも掴みたいものです。

さて、薄膜・表面物理の分野も、グラフェンやトポロジカル絶縁体、単原子膜超伝導など面白い話題が登場し賑わっています。スピントロニクス、バイオ、医療、環境、他、多くの領域で薄膜表面の技術が基礎となる今日の科学ですが、新しい会員の中には20年前、ACSIN (Atomically Controlled Surface, Interface and Nanostructures) という国際会議が分科会により立ち上げられたことをご存じない方もあるかもしれません。分科会の先見性を示す本会議は、第一回 ACSIN (Nは5回目より追加) が1991年に東京大学本郷を会場として開催されて以来、アジア、ヨーロッパ、アメリカの持ち回りで続けられ、今年はロシア Petersburg で開かれ成功をおさめました。その際、国際諮問委員会における検討の結果、2013年、ACSIN12が山部現副幹事長を組織委員長として日本で開催されることが決まりました。私自身は実行委員長としてお手伝いをさせて頂く事になり、この場を借りて、会員の皆様のご協力をお願いする次第です。分科会発でナノスケール科学・技術の分野をリードしてきました本会議を引き続き発展させるため、どうか宜しくお願い致します。

暦の上ですが、一年の区切りがあることは気持ちを切り替えるよい機会になります。お互い、偶然との出会いを楽しめるよう諦めず努力を惜しまず、運命が与えてくれる夢の橋を渡りましょう。会員の皆様に素晴らしい一年が訪れますよう。